

マニュアル編

總論

1. ユニバーサルデザインの考え方

【ユニバーサルデザインとは何か】

近年、まちづくりやものづくりの分野でユニバーサルデザインという考え方が浸透してきています。

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、言葉の理解度等に関わらず、だれもが利用しやすいよう、建物や製品、環境をデザインする考え方を指します。

この考え方は、1980年代にアメリカノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏によって提唱されたものです。また、この考え方をより具体的に表わすものとして、以下の7つの原則が示されています。

ユニバーサルデザインの7つの原則

1. 誰にでも公平に利用できること
2. 使う上で自由度が高いこと
3. 使い方が簡単ですぐわかること
4. 必要な情報がすぐに理解できること
5. うっかりミスや危険につながらないデザインであること
6. 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
7. アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

【バリアフリーとユニバーサルデザイン】

「ユニバーサルデザイン」と比べられる考え方に「バリアフリー」があります。ユニバーサルデザインもバリアフリーも、だれもが快適で自由に行動できる社会を目指すという目標は共通しています。

バリアフリーは、日常生活や社会生活の中での様々な障壁（バリア）を取り除いていこうという考え方であり、段差解消のためのスロープやエレベーターの設置など、施設の改善をはじめとするいろいろな取組により、これまで行動しづらかった方々の社会参加のために一定の成果を上げています。障壁がある限り、この取組が重要であることに変わりはありません。

ユニバーサルデザインは、バリアフリーの取組をさらに進め、様々な人の特性や違いなどを考慮し、はじめからすべての人を考えに入れて計画し、実施することにより、障壁を作らないという考え方です。

例えば、建物にエレベーターを設置しても、どこにあるのかわかりにくかったり、それを使うためには階段と比べて遠回りになるといった場合があります。エレベーターを設置することでバリアが解消されるということだけでなく、もう一步、利用者の立場に立った公平な使いやすさを考えることが重要です。

【ユニバーサルデザインの実現】

ユニバーサルデザインの考え方に基づいて、一つの方法で「すべての人」が利用しやすいようにすることは、現実には困難な場合も考えられることから、その実現手法として、次のような方法が挙げられます。

一つの方法でいろいろなニーズを満たす

例：自動ドア、幅の広い歩道、ノンステップバス など

利用者に応じて複数の選択肢を用意する

例：高さの違う手すり、文字と音声による案内情報 など

利用者のニーズに合わせて柔軟に対応する

例：高さを調節できる洗面台、色の表示を変えられるパソコン など

また、ユニバーサルデザインを実現するためには、1人でも多くのニーズに応えられるよう利用者が施設整備に参加し、様々な意見を聴きながらより良いものにしていこうという過程や姿勢が重要です。さらに、できあがったものの機能を維持し、さらに改善できないか継続して求めていくことが必要です。

本マニュアルでは、こうした考え方に立って、ユニバーサルデザインを次のように定義しています。

すべての人が、またどのような状態の時でも利用可能なように、はじめから考えて計画し、実施するとともに、その後もさらに良いものに変えていこうという考え方

さらに、この考えのみに限らず、経済性や美しさといった本来デザインが目指すべき原則についても検討していく必要があり、可能な限りだれもが利用しやすく、親しみのあるデザインのあり方を追求していかなければなりません。

【ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた施設整備の事例】

車いす使用者便房(多機能便房)

車いす使用者便房は、内部を広くし、手すりはもちろんのこと、ベビーシートなどの設備も整備されており、車いす使用者をはじめとする体の不自由な方や、高齢者、乳幼児連れ、けがをされている方など、だれもが利用しやすいトイレとして配慮されています。



選べる移動手段

階段とエレベーターとエスカレーターが同じ場所に整備されており、利用する人の身体的特徴に合わせて選べるようになっています。このように、同じ場所で選択性があることは、ユニバーサルデザインといえます。



2. だれもが利用しやすい施設整備の考え方

【施設を整備するとき】

高齢者や障害者を特別扱いしない施設の計画

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、高齢者や障害者等に配慮した設備を設けて障壁を取り除くというだけでなく、だれもが同じ動線を利用でき、同じサービスを受けられるような施設を計画していくことが大切です。

想定される利用者のリスクの回避

想定される利用者のリスク（つまづく、こける、迷う）等に配慮する必要があります。例えば、傾斜路を設置する場合、基準に適合したこう配とするだけでなく、誤って後ろに下がった場合に衝突する危険性のある場所に緩衝機能を持たせるなど、より安全に利用できるデザインを行うことが必要です。

バランスのとれた施設の整備

段差がすべて解消されていても、手すりの設置や視覚障害者誘導用ブロックの敷設が不適切であったり、だれもが利用しやすいトイレを整備しても、その場所の案内が不親切であるというような片寄った整備ではなく、全体的にバランスのとれた施設の整備が必要です。

ソフトとハードを一体的に捉えた計画

十分な幅員の敷地内通路を設けても、そこに自転車が置かれると車いす使用者の通行が困難となるなど、だれもが利用しやすい施設を整備してもその運営や維持管理面において効果が十分に発揮されない場合があります。維持管理面も踏まえた施設の計画に配慮するとともに、ハードとソフトを一体的に捉えた総合的な施設づくりが必要となります。

完成後の改善まで考えた計画

完成した建物がいつまでも利用しやすいものであるとは限りません。完成後の様々な環境変化や利用者の意見に応じて必要な改善が行えるよう、計画段階からリフォームなどのフレキシブルな対応が可能となる施設とすることが大切です。

【施設の整備後】

事後の点検と継続的な改善

完成後、実際に使ってみると、利用者の流れが計画段階の想定と異なっていたり、室配置やサイン設備がわかりづらかったりと、利用しにくい面が判明する場合があります。施設の利用しやすさについて常に点検し、継続的に改善を行っていくことが必要です。

定期的に利用者の声を聞き、改善につなげる仕組み

継続的な改善を行うためには、定期的に施設関係者や利用者の声を聞き、利用者の特性やニーズを把握した上で、速やかに施設の改善につなげていくことができる仕組みをつくる必要があります。

既存施設の改善にあたっては、県が作成した「**淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム**」を参考にして下さい。（右頁参照）

淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムの趣旨

淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム（以下、点検プログラム）は、施設の管理者である事業者が、自らの施設を自己点検することで、ユニバーサルデザインとは何かを理解してもらうためのきっかけをつくるものです。そして、事業者自らの活動を通じて、ユニバーサルデザインの取り組みの輪を、社会全体に広げていこうとするものです。

改善・維持活動に関わる情報は、共有化させることによって、事業者、利用者双方にとって有益なものとなり、ユニバーサルデザインの取り組みの輪を社会全体に広げていくことにつながります。

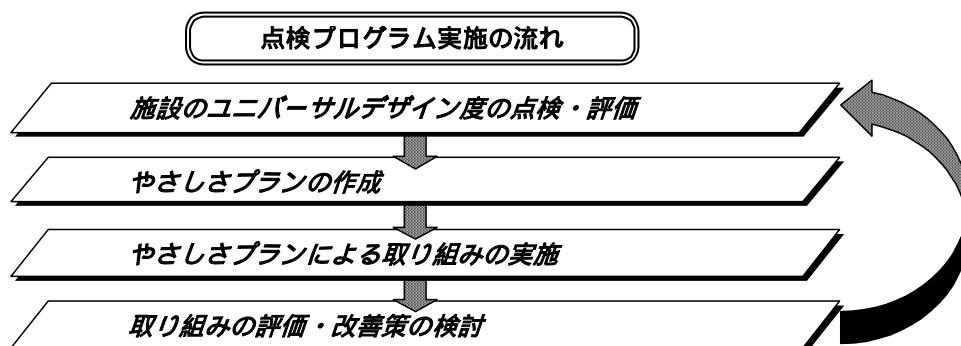
ユニバーサルデザインの取り組みの輪を広げるためには、利用者もこのプログラムに参加してもらいユニバーサルデザインとは何か、使いやすい施設とは何かを理解してもらうことが大切です。

淡海ユニバーサルデザイン点検プログラムの構成と実施の流れ

点検プログラムは、施設の点検 現状評価 ディスカッション 計画書（やさしさプラン）づくり 計画に沿った取り組み 取り組みの評価 改善策の検討 といった流れで継続的に実施していきます。

点検プログラムは、まず事業者が、「やさしさ度チェックシート」（次頁図）を用いて施設の現状を点検することから始まり、続いてそこで把握された現状を評価し、施設の改善に向けた計画書「やさしさプラン」（次頁図）をつくります。

このプランに沿った取り組みを行い、最後に1年間を通しての取り組み状況の把握、次年度に向けての改善策の検討を行います。この一連の流れを継続して行うことで、改善を永続的に進めていくことができます。



県では、誰もがより利用しやすい施設づくりを進めるため、平成14年度から多くの県民の方が利用される既存の県立施設でこの点検プログラムを活用しています。さらに、様々な公共施設や不特定多数の方が利用される民間施設についても、この点検プログラムが活用され、ユニバーサルデザインの取り組みが広がっていくよう普及していきたいと考えています。

4. 施設の快適性の向上と 情報・人的サービスの提供		配慮されていない	0点	
		特定の人だけに移動しやすい	1点	
		概ねの人にとって移動しやすい	2点	
		すべての人にとって移動しやすい	3点	
3. 施設の誘導案内のわかりやすさ		配慮されていない	0点	
		特定の人だけに移動しやすい	1点	
		概ねの人にとって移動しやすい	2点	
		すべての人にとって移動しやすい	3点	
2. 用意されている設備の使いやすさ		配慮されていない	0点	
		特定の人だけに移動しやすい	1点	
		概ねの人にとって移動しやすい	2点	
		すべての人にとって移動しやすい	3点	
やさしさ度チェックシート				
1. 移動の安全性と移動しやすさ		配慮されていない	0点	
		特定の人だけに移動しやすい	1点	
		概ねの人にとって移動しやすい	2点	
		すべての人にとって移動しやすい	3点	
①	水平に移動する経路には、転落や転倒、衝突のおそれのある危険箇所や段差がなく、また、通路の有効幅員を狭くする様な障害物等が取り除かれ、すべての人にとって移動しやすいものとなっていますか？		3点	
配慮されている点 ・ 勾配、幅員が配慮されたスロープが設置されている。 ・ 視覚障害者誘導用ブロックが連続して設置されている。		問題点 ・ 駐輪してある自転車のために通路幅員が狭くなっている。		
②	垂直な移動が必要な場合は、すべての人が安心して、可能な限り単独で移動しやすいエレベーター等を設置していますか？		3点	
配慮されている点 ・ 十分な広さのエレベーターが設置されている。 ・ 点字操作盤が設置されている。 ・ 防犯窓付きのエレベーターである。		問題点 ・ 乗降ボタン付近にごみ箱があるために、点字操作盤での操作の妨げとなっている。		
③	階段がある場合は、転倒の危険性に対する安全面での配慮がなされ、昇り降りしやすい構造になっていますか？		2点	
配慮されている点 ・ 踊り場にはきちんと視覚障害者誘導用ブロックが設置されている。 ・ 手すりには点字表示がされている。 ・ 2段の手すりが設置されている。		問題点 ・ 階段の路面と端部が同色であるため、識別しにくい。		
④	見通しをよくするなど、誰にとっても通路や階段、エレベーターなどの位置、目的場所などがわかりやすくなっていますか？		1点	
配慮されている点 ・ エレベーターから目的場所までの経路がわかりやすい。		問題点 ・ 出入口からエレベーターの位置がわかりにくい。		
a.	①～④の平均 [(1)+(2)+(3)+(4)] ÷ 4 = 2.25 点 → (小数点以下四捨五入)			2点

計算式

$$(3+3+2+1) \div 4 = 2.25 \Rightarrow 2$$

「淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム」やさしさプラン（1回目）

①事業社名・所在地・担当者連絡先	〇〇文化会館（〇〇財団） 〇〇市〇〇町〇〇〇	担当：お客係様 TEL：077-〇〇-〇〇																																																									
②やさしさプラン作成年月日	平成〇年〇月〇日	④公表の意志 公表する <input type="radio"/> 公表しない <input type="radio"/>																																																									
③施設の概要 用途：公会堂、集会場 規模：2階建、延べ床面積：〇〇㎡ 特性：特に来訪者は特定されない	⑤施設の現状評価の方法 事業者単独でチェックした <input type="radio"/> 利用者も参加してチェックした <input type="radio"/>																																																										
⑥施設のやさしさ度チェック結果 ・評価に際して考慮した経路 ○外部出入口、駐車場から1階大集会場、 2階小集会場に至る経路	<table border="1"> <tr> <td>移動の安全性と移動しやすさ</td> <td>3点</td> <td>水平移動の安全性としやすさについて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3点</td> <td>垂直移動のしやすさについて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2点</td> <td>階段での安全性について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1点</td> <td>わかりやすく単純な施設構成について</td> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>2.25</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>用意されている設備の使いやすさ</td> <td>2点</td> <td>駐車場について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3点</td> <td>休憩場所の設置について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2点</td> <td>一般のトイレの利用しやすさについて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1点</td> <td>車いす利用者が立ち上る設備について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1点</td> <td>利用者に気づいてあやうな危険について</td> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>2.25</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>施設の誘導案内のわかりやすさ</td> <td>3点</td> <td>案内情報の設置とその位置について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2点</td> <td>案内情報の内容と表示の仕方について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0点</td> <td>案内図等に代る視覚情報/図解について</td> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>2.00</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>施設の快適性の向上と情報・人的サービスの提供</td> <td>2点</td> <td>施設の整備状況について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0点</td> <td>ユニバーサルデザイン点検の結果について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1点</td> <td>人的サービスについて</td> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>1.00</td> <td>点</td> </tr> </table>		移動の安全性と移動しやすさ	3点	水平移動の安全性としやすさについて		3点	垂直移動のしやすさについて		2点	階段での安全性について		1点	わかりやすく単純な施設構成について	平均点	2.25	点	用意されている設備の使いやすさ	2点	駐車場について		3点	休憩場所の設置について		2点	一般のトイレの利用しやすさについて		1点	車いす利用者が立ち上る設備について		1点	利用者に気づいてあやうな危険について	平均点	2.25	点	施設の誘導案内のわかりやすさ	3点	案内情報の設置とその位置について		2点	案内情報の内容と表示の仕方について		0点	案内図等に代る視覚情報/図解について	平均点	2.00	点	施設の快適性の向上と情報・人的サービスの提供	2点	施設の整備状況について		0点	ユニバーサルデザイン点検の結果について		1点	人的サービスについて	平均点	1.00	点
移動の安全性と移動しやすさ	3点	水平移動の安全性としやすさについて																																																									
	3点	垂直移動のしやすさについて																																																									
	2点	階段での安全性について																																																									
	1点	わかりやすく単純な施設構成について																																																									
平均点	2.25	点																																																									
用意されている設備の使いやすさ	2点	駐車場について																																																									
	3点	休憩場所の設置について																																																									
	2点	一般のトイレの利用しやすさについて																																																									
	1点	車いす利用者が立ち上る設備について																																																									
	1点	利用者に気づいてあやうな危険について																																																									
平均点	2.25	点																																																									
施設の誘導案内のわかりやすさ	3点	案内情報の設置とその位置について																																																									
	2点	案内情報の内容と表示の仕方について																																																									
	0点	案内図等に代る視覚情報/図解について																																																									
平均点	2.00	点																																																									
施設の快適性の向上と情報・人的サービスの提供	2点	施設の整備状況について																																																									
	0点	ユニバーサルデザイン点検の結果について																																																									
	1点	人的サービスについて																																																									
平均点	1.00	点																																																									
⑦施設の現状評価結果	7点 ★★☆☆																																																										
⑧アビリティ点	基本的に垂直・水平移動は快適に行えるような施設になっている。																																																										
⑨取り組み目標と具体的な取り組み内容	○ユニバーサルデザイン情報の提供と人的サービスの向上 ・ホームページに情報を公開するとともに、パンフレット類にユニバーサルデザインコーナーを設け、ユニバーサルデザイン情報を随時掲載していく。（1年間を通じて） ・全職員で車いす体験・高齢者疑似体験を実施するとともに、介助知識も身に付ける。（今後3ヶ月以内に）																																																										
⑩やさしさプランの推進体制	各係に1名のユニバーサルデザイン推進委員を任命し、お客係係りを中心にやさしさプランを推進。																																																										

やさしさ度チェック



やさしさプラン

やさしさ度チェックとやさしさプランの取り組み例「淡海ユニバーサルデザイン点検プログラム」